

高等部 作業Ⅱ(食品加工) 学習指導案

指導者 T 1
補助者 T 2
指導担当教員 ◇◇◇◇

1. 日時 平成19年7月4日水曜 第1, 2校時(9:00~10:30)
2. 対象 高等部食品加工班 計7名
(1年生 男子2名・女子1名、2年生女子2名、3年生 男子1名・女子1名)
3. 場所 調理室
4. 題材名 引き出物のクッキーを納品しよう

5. 題材の目標

- ・規格・基準を守ってクッキーづくりに取り組む。
- ・販売の経験を通して、自分たちの活動に対する自信を持つ。
- ・班の友だちと協力して、目標量を仕上げる。

6. 題材について

①生徒観

- ・今までに415袋のクッキーを規格・基準を意識してつくり、納品してきた。
- ・3年生が実習に出ているので、2年生がかわりに1年生の生地の出来具合や成形の確認を担当することになった。3年生がいないときは自分たちがしなければならぬという自覚が出てきた。
- ・1年生は、クッキーづくりに必要な道具や材料を自分でそろえることに始まり、生地づくりの工程から工程に移る判断が、素材の状態や色の変化を手がかりとしてできるようになってきている。
- ・1, 2年生は、自分たちががんばらないと納品できないことを自覚し、目標数を意識して取り組むことができている。

②題材観

- ・クッキーの材料は、小麦粉、砂糖、卵、マーガリンである。それらの材料を手順にそって混ぜていくと、最後にはひとまとまりの生地となる。
- ・次の材料を混ぜるタイミングを知る手がかりは、目で見てわかる手がかりとして材料の色や状態がある。
- ・用途に応じた道具を数種類使う。それぞれの道具の機能を引き出すためにふさわしい身体の使い方が求められる。姿勢の保持や体力、持続力も必要とされる。
- ・袋詰めは、一定量の重さになるように個数を加減したり、清潔に壊さないように詰めることが

必要となる。いつも同じ出来上がりになるよう、リボンやシールを定位置に飾ることも必要である。このように、規格・基準を意識させやすい題材である。

- ・必要な道具や材料の種類が少なくできるクッキーや多く必要なケーキなど、個々の生徒の実態に応じてつくるものを設定できる。

③指導観

- ・家庭にある材料を使い、量を変えてつくってみることで、違うクッキーやケーキができることにおもしろさを感じさせたい。自分でもスーパーで売っているようなお菓子がつくれるんだということに気づかせたい。
- ・販売する相手や何に使われるかということを意識して規格・基準を満たしたものをつくる態度を養いたい。
- ・規格・基準を守る必要を、失敗経験を通して理解させていきたい。
- ・道具を扱いやすい姿勢や方法を、繰り返したくさんつくる中で自分なりに見つけてほしい。
- ・目標量を授業のはじめに提示することで、時間内にやりきる姿勢も身につけていきたい。

7. 指導計画(全24時間)

- | | | | |
|-----|------------|-----|----------------|
| 第一次 | 生地づくり | ・・・ | 10時間 |
| 第二次 | 計量、成形、焼き上げ | ・・・ | 8時間 |
| 第三次 | 袋詰め | ・・・ | 6時間(本時3, 4時間目) |

8. 本時の学習

①本時の目標

- ・自分の役割を意識し、自分の作業の結果を確かめながら作業する。
- ・目標量を時間内にやりきる。

②生徒の実態と課題・手だて

氏名	生徒の実態	課題	手だて
○ 本 ○ 夫	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキーづくりでは、道具・材料を書いたカードを手がかりにして、自分でそろえられるようになった。素材の状態や色の変化を手がかりにして、次の活動に移るようになってきている。 ・道具の名前、材料の名前、作業によく使う動詞は覚えて言える。経験を通してことばを理解していくことができる。 ・手指の操作性は高く、持続力もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラシン紙がくしゃくしゃにならないように漏斗を入れる。 ・目標量を時間内にやりきる。 ・したことをことばで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばを重ねながらやって見せることで、どのようにするか、どうなればよいかを伝える。 ・見本を見せる。 ・時計やタイマーを用いる。袋詰めするクッキーを全量見せる。 ・表現の仕方を知らせる。
●	(以下、全員について記述する)		
◇			
◆			

△			
▲			
◎			

③本時について

本時は納品に向けてクッキーを袋詰めするという最後の仕上げである。購入する人に喜んでもらえるよう、清潔に美しく袋詰めしなければならない。

今回の袋詰めはお祝い用なので、薄いグラシン紙やシリカゲルを入れるなど、今までの袋詰めとは形を変えた。グラシン紙を入れる向き、入れた後に紙が折れていないかどうかの点検、クッキーを入れるときにグラシン紙がくしゃくしゃになっていないかどうかの点検等が今までより増える。

袋詰めは流れ作業の形で行い、各生徒の実態に応じて役割を分担する。それぞれが自分の役割を責任持ってやりきれんことを期待する。

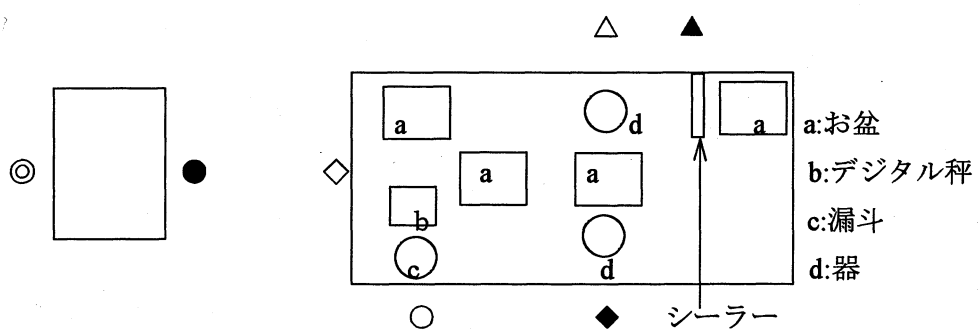
160袋すべてが規格・基準を満たすことや期限を守ることの必要性を、これを機会に意識させていきたい。

④本時の展開

学習の流れ	学習活動	指導の手だて
始業前の準備	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声であいさつをして入室する。 タイムカードを印字し、作業ノートを所定の位置に置く。 割烹着を着る。 マスクをつけ、髪の毛が出ないように帽子をかぶり、鏡を見て自分でチェックする。 石鹸で手を洗い、消毒する。 乾いた道具・ふきんを所定の位置に片付ける。 調理台をふき、消毒する。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつがなければ、指導者が大きな声であいさつする。 作業ノートを入れる箱を置いておく。 T2が点検する。 T2が点検する。 道具棚に道具名を書いたテープを貼っておき、どこにしまうかがわかるようにしておく。 一緒にすることで、万遍なくふけるように、ふきんの使い方、ふき方を知らせる。
集合・あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 班長の声かけで集合し、あいさつする。 	<ul style="list-style-type: none"> 班長に、集合時刻を伝えておく。
本時の活動の理解	<ul style="list-style-type: none"> 本時の袋詰めの目標数をみんなで決める。 自分の本時の役割、本時の目標（質・量・時間等）を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲を高めるために前時にできた数、要した時間を知らせる。 前時の自分の役割を思い出し、ことばで確認する。 量がわかるように、袋詰めするクッキーをすべて見せる。
袋詰め準備	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に必要な道具やものを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「何時まで」を時計やタイマーで提示する。
袋詰め作業	<ul style="list-style-type: none"> 守るべきことを意識しながら作業を始 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の手順にそって、何の道具が必要であるかを思い出すような質問をする。

	める。できたものは、次の担当の友だちに「お願いします」と言って渡す。 ◎と●は袋にグラシン紙を入れる。 ◆と△はおわんにクッキーを 12 個数えて入れる。 ○はグラシン紙の入った紙に漏斗を入れ、クッキーを入れる。グラシン紙を入れた袋がなくなったら、グラシン紙を入れる役割の友だちのところへ取りに行く。「もらっていきます」と声をかける。 ◇は 59～61g の間になるようクッキーを加減する。 ▲は袋の口を空気を抜いてシーラーで留める。	・友だちに渡すときを見計らって一緒に「お願いします」と言う。 ◎●○・・・やって見せる。成功したもの、失敗したものを見比べさせ何がどうなればよいかを知らせる。 △・・・声を出して数えながら入れるようにする ○・・・グラシン紙を入れた袋がなくなったら、一緒に友だちのところへ行き、何とか様子を見る。言えなければ言い方を知らせる。 ◇・・・加減しやすく、調整用のクッキーをそばに置く。 ▲・・・やって見せる。
後片付け	・袋詰めに使った道具や余った袋を片づける。	・調理台の上のものがなくなるまで片づけるように確認する。
検品	・袋詰めしたクッキーの検品を行う。 ・数を確認する。10, 20, 30 と数える。	・入っていないもの（髪の毛・ゴミ・割れたクッキー）を白板に書き上げる。 ・お盆に 10 個ずつ袋詰めしたクッキーを並べるようにする。
次時の理解	・袋詰めしたものにリボンをかけて仕上げることを知る。	・次の時間にすることがわかるように、出来上がりを見せる。
あいさつ	・班長の号令であいさつする	

⑤学習の場



⑥準備物

デジタル秤 1 トング 3 器 2 グラシン紙 クッキー用袋 漏斗 盆 4 シーラー

⑦本時の評価

- ・それぞれの役割での規格・基準を守り、自分の作業を確かめながら作業できたか。
- ・目標量を意識し、友だちと協力して時間いっぱいやりきることができたか。